

＝ 普 及 情 報 ＝

No. 7

平成31年3月20日

隠岐支庁農林局農政・普及部

標 題

隠岐島後認定和牛改良組合畜産研修会を開催しました。

(ダイジェスト)

隠岐の島町では県種畜共進会でのグランドチャンピオンの獲得等から和牛改良への気運が盛り上がっています。この盛り上がりや、地域の和牛改良や次回の全国和牛能力共進会の出品対策につなげるため、「目指すべき隠岐の素牛とは」と題して、2月25日に島後和牛改良組合研修会を開催しました。

研修会の中で畜産技術C育種改良部北村部長より、隠岐地域の子牛市場出荷体重から繁殖牛の泌乳能力を推定する研究結果報告がありました。乳量の多い母牛ほど子牛の発育が良いこと、繁殖牛は自家保留が中心で、泌乳能力は生産者間の牛群でバラツキがあり、泌乳能力の低い牛群には能力の高い牛を他の生産者から導入することも必要であること等説明がありました。



研修会の様子

また、隠岐支庁農林局からは、隠岐家畜市場に購買に来られる県内の肥育農家5戸に対して行った聞き取り調査結果を報告しました。調査の結果、肥育農家は隠岐らしい牛を求めて隠岐地域へ買いに来られていることが分かりました。隠岐らしい牛とは、連産性、乳量、持続性等、繁殖性に優れた母牛のことで、低コスト生産が可能です。そのような繁殖性に優れた母牛は、隠岐地域には代々受け継がれた系統が多く存在するので残して欲しいことを説明しました。

全国和牛登録協会島根県支部の細田主任技師から、県種畜共進会の今年のグランドチャン



系統牛調査の様子

ピオン牛（恵茂勝）及び平成28年度第4区（成雌）首席牛（恵茂勝）の系統である「おき第1のぎく系」の現存雌牛20頭の調査結果について報告があり、この系統内では「恵茂勝」号を交配した産子は発育、体積、品位等の良い牛が多く、今後は「恵茂勝」号の産子を中心に保留に務めて欲しいとお話がありました。隠岐の島町ではこの他にも多くの系統牛がいることから、今後も調査を続け、適正な交配による系統維持を行い、生産者・関係機関一丸となって、育種改良に取り組みたいです。